

第 11 回横浜・人・まち・デザイン賞 実施スケジュール

地域まちづくり部門

まちなみ景観部門

◎第 11 回横浜・人・まち・デザイン賞募集 [令和 5 年 5 月～6 月]

- ・応募はがき又はウェブページからの電子申請による応募
- ・自薦、他薦は不問、複数の応募も可

○第 19 回表彰部会 [令和 5 年 8 月 17 日]

- ・部会長選任
- ・審査の流れ確認
- ・応募状況報告

◇まちなみ景観部門案件調査等

[令和 5 年 7 月～10 月]

- ・事務局で案件調査を行い、応募案件の個票を作成
- ・個票を各委員へ送付

○一次選考 [令和 5 年 9 月～10 月]

- ・各委員の書類審査を基に選考

○活動調査等 [令和 6 年 11 月]

- ・地域まちづくりの活動状況の調査（ヒアリング）を事務局で実施し、調査票等を作成
- ・活動調査票等を各委員へ送付

◇都市美対策審議会表彰広報部会

・現地調査 [令和 5 年 11 月 15 日]

○第 20 回表彰部会 [令和 5 年 12 月 22 日]

- ・二次選考、支援賞の決定

◇都市美対策審議会表彰広報部会

・選考 [令和 5 年 12 月 21 日]

○地域まちづくり推進委員会に選考結果を報告
[令和 6 年 2 月 27 日]

◇都市美対策審議会に選考結果を報告
[令和 6 年 3 月(予定)]

◎表彰対象決定・公表 [令和 6 年 3 月下旬頃]

- ・両部門の選考終了後、市長が表彰対象を決定し、3 月頃結果を公表（記者発表・ホームページ等）
- ・作品集（受賞活動・受賞景観集）の発行

◎表彰式 [令和 6 年 5 月 22 日（水）午後]

- ・場所 市庁舎 1 階アトリウム（予定・時間調整中）
- ・内容 表彰式、記念写真等

日本一小さい!?ローカルメディア 「かんだいじナビ」

活動団体名 かんだいじナビ

活動概要

地域には気づかれていない魅力が沢山ありますが、それに出会うきっかけ(情報)が少ないと考え活動を始めました。地域で暮らす人に特化して役立つ情報をポータルサイトで発信し、また、利用する地域住民が「地域ライター制度」で発信側になることで地域貢献できる場も作っています。さらに、地区自治連合会や大学生、農家など様々な方と連携したイベント企画や、地域の特産物を作り販売するなど、リアルなイベントを通じて、転入者も含めた住民同士の繋がりを生み、まちの賑わいの促進にも寄与しています。

表彰理由

まだ活動歴は短いですが、地域ライター・ボランティア等の募集、多国籍翻訳リンクなど、多種多様な住民の「活躍の場」づくりを意識した活動が「ローカルメディア」の域を超えていると評価しました。記事内容も面白く、街の「地域に対するポジティブな気持ち」をすくい上げるプラットフォームとして自律・自立・持続する社会活動にさらに発展することを期待しています。

ホームページ インスタグラム

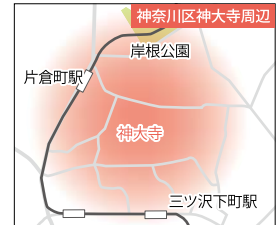
活動場所 神奈川県神奈川郡神奈川町
活動団体の詳細はこちら <https://kandaijinavi.com>



▲一人ひとりの目線で地域の魅力を伝えよう!町のみんが発信者「地域ライター活動」



▲情報発信のアレコレをみんなで一緒に勉強、学習発表も地域へ発信!



活動を支援した個人または団体

- 大場知幸(「Le mitron pains ル・ミトロン」創業者)
- 塚原泉(神奈川県地域づくり大学校総合ファシリテーター)
- 神奈川地区自治連合会 ●片倉地区連合自治会
- NPO法人まち×学生プロジェクトplus

◆支援内容

大場さんからは活動開始の勇気を、塚原さんからは活動継続の知恵を、地区自治連合会の皆様には情報を集めやすい基盤を、まちかけさんから活動発展への新しい活力をいただきました。皆様のご支援が、当活動を継続させるエネルギーとなり、住み良い地域づくりにつながっています。

関内外OPEN!

活動団体名 関内外クリエイターズ(任意団体)、
公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

活動概要

関内・関外地区に建築家、アーティスト等のクリエイター集積が進む中、それらの活動を市民に知ってもらう機会として始めました。仕事場を見学できる「オープスタジオ」や、街なかのクリエイティブを身近に感じるまち歩き「スタジオツアー」、公共空間を活用した「道路のパークフェス」などを通じて、横浜の魅力を発信しながら、市民とクリエイターが交流できる機会を創出しています。また、市内の中小企業等とつながりを深めることや、子ども向けの環境教育イベントに参加するなど社会貢献にも取り組んでいます。

表彰理由

地域に集まる柔軟で新しい発想を活かし、都市における新しい地域とのかかわり方の可能性を示していると思います。また、クリエイターが集積していること自体も地域の魅力の一つになりつつあると思います。これからも地域の様々な方・組織とのつながりを活かして、豊かな文化・コミュニティをはぐくみ、横浜の魅力を発信していただけたらと思います。

活動場所 中区関内・関外地区

イベントホームページ 活動ホームページ

活動団体の詳細はこちら
<http://kannaigai.yafjp.org/kannaigai15/>
<https://acy.yafjp.org/>



▲関内外OPEN111 「道路のパークフェス」



▲関内外OPEN113 会場の様子



活動を支援した個人または団体

- 関内まちづくり振興会 ●関内桜通り振興会

◆支援内容

道路活用やまちづくり活動の連携などを通じて本活動への理解をいただき、道路など公共空間の活用に地域としての賛同を得ることができました。また、イベントの周知など、広報協力をいただき、地域住民への認知度向上に大きくつながりました。

森ラボ

活動団体名 GROUP創造と森の声

活動概要

人の手が入らなくなった里山の美術展開催をきっかけに、「アートと森づくりと地域」をテーマに、新たな里山の再生ができないかと考えたことが始まりです。森のイベント開催には資金と、森の手入れが必要です。森民サポートという協賛金を募り、また森づくりボランティアとして、作家やスタッフと共に森のアートイベントを26年開催し続け、森の新たなあり方を模索してきました。活動を通して自然やアートの素晴らしさを多くの人と共有し、森という環境が開かれた集いの場となることを目指しています。

表彰理由

都会に残された貴重な自然環境である里山の森を舞台に、美術展やアートワークショップ、森の再生ボランティア活動を長年続けられています。アーティストや幅広い世代の市民を巻き込んで、みんなで楽しみながら森を育て、守っていかうとする姿勢に心を打たれました。横浜の森が多くの人に知られ、さまざまな人々が集まる場になっていくことを嬉しく思います。

活動場所 旭区上白根町、横浜動物の森公園、里山ガーデン保全林

活動団体の詳細はこちら

<https://morilab.amebaownd.com/>
<https://www.facebook.com/SouzoutoMorinokoe1997>

ホームページ



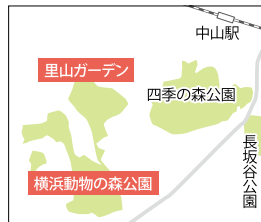
フェイスブック



▲粘土のワークショップ。想い想いの形の土鈴が完成。作品の前に子どもも大人も集合



▲バードコールを作成する子どもと大人。誰でも夢中になる森のワークショップ



活動を支援した個人または団体

- 沢田清美(にいほるびじゅつ主催)

◆支援内容

美術展中心の企画に子どもが参加できる内容を提案してもらい、私たちのイベントに広がりを与えてくれました。森の活動に子どもたちが参加することで、家族や他のグループとの交流の機会をつくり出し、地域のスタッフや支援者を巻き込みながら、活動を長く続けていくきっかけとなりました。

産学官協働によるLINKAI横浜金沢の魅力発信と地域コミュニティの創出

活動団体名 NPO法人Aozora Factory

活動概要

LINKAI横浜金沢には多種多様な企業が多く立地する中、近隣企業間が希薄であること等の課題から、どのように取り組めばこの地域に人が集まり活性化するかを、企業や大学と議論しながら活動が始まりました。高い技術やユニークな特徴を持つ製造業が多い地域の特色を生かして体験型のワークショップ等を開催し、地域や企業を知る機会を創出。同区の地域コミュニティ団体とも連携し、子育てや文化芸術などのイベントにも参加し、様々なネットワークの構築を図っています。イベント等への参加者も年々増え、多くの企業や人との繋がりを作り続けています。

表彰理由

これまで企業の魅力は点々と発信されている印象でしたが、地域や大学がその点を結びつけ、面の魅力とした非常にユニークな取組だと感じます。結果「一企業」の枠組みを超え新たな挑戦や企画が生まれることが期待されます。また、地域住民と企業のwin-winな関係性や、廃棄される廃材に新たな価値を生み出す活動も、魅力の一つであり、今後の展開・発展が非常に楽しみです。

活動場所 金沢区臨海部(LINKAI横浜金沢)を中心とした周辺地域

活動団体の詳細はこちら

<https://aozorafactory.com/>
https://www.instagram.com/aozorafactory_official/

ホームページ



インスタグラム



▲2017年に横浜金沢産業振興センターにて開催した第2回Aozora Factoryの運営スタッフ集合写真



▲体験型ワークショップイベントで、DIYアドバイザーからレクチャーを受け、ものづくり体験



活動を支援した個人または団体

- (一社)横浜金沢産業連絡協議会 ● 横浜市金沢団地協同組合
- 横浜市立大学 ● 関東学院大学

◆支援内容

活動を通じて、両大学と産業団地の情報共有や相互理解を支援しました。産学連携を深めた支援効果として、①産業団地が学生のキャリア候補となり就職・転職先になり、②企業活動に学生の新たな視点を与え地域へのマッチング強化が行われ、持続可能なパートナーシップの構築に繋がりました。

NPO法人森ノオト

活動団体名 NPO法人森ノオト

活動概要

「地域や自然と調和した社会と、その担い手を育てる」をビジョンに掲げ、足元の地域での暮らしに目を向けた情報を発信するウェブメディアを立ち上げたことが始まりです。

広告をとらず、読者からの寄付を募るスタイルでメディアを運営し、市民ライターを育てながら地域の人や活動などを取材し発信しています。メディア運営を軸に、地産地消マルシェや資源循環につながる事業を行っております。地域住民による住民のための情報発信を継続し、森ノオトをハブとした顔の見えるつながりを沢山つくっています。

表彰理由

身近な地域の暮らしの情報を発信することで、地域をもっと良くしたいという思いが伝わってきました。地域や自然と調和した社会とその担い手を育てるといった理想に向かって日々積み重ねられている活動は、誰もが地域への一歩を踏み出したくなるような楽しさに溢れています。青葉区から始まり、日本全国や海外へもつながる地域メディアのこれからに期待しています。

ホームページ



活動場所
青葉区全域

活動団体の詳細はこちら
<https://morinooto.jp/>



▲子育て世代を中心に、地域の多様なメンバーが集まるNPO法人森ノオト



▲市民ライター養成講座



活動を支援した個人または団体

●中里北部連合町内会

◆支援内容

福祉のネットワーク「気づきの和連絡会」への参加を呼びかけてくださり、協働しながら会の運営、広報誌の制作を行っています。また、連合町内会との連携した活動が、地域での森ノオトの認知、地域団体としての活動の理解を広げてくれています。

舞岡公園自然体験施設 (文化体験施設併用)の維持管理

活動団体名 特定非営利活動法人 舞岡・やとひと未来

活動概要

谷戸の風景を残しつつ市民が自然に触れ合い農体験ができる場を目指して、1993年に舞岡公園が開園しました。

公園では、行政と連携しながら水田の整備等を行い、また、里山の恵みを無駄なく使う体験イベントなどを通して環境保全や生きものの素晴らしさを学ぶ場を提供しています。活動の継続を図るため、「舞岡公園谷戸学校」を開講しスタッフを養成。さまざまな生きものが織りなす豊かな自然の営みが末永く続くことを願い、地域交流の促進を柱に、市民に愛される公園作りを進めています。

表彰理由

舞岡公園における活動は、公園という公共施設における、協働による管理運営の目指すべき姿の一つだと思います。行政とのやり取りなど、様々なハードルを乗り越えて、今の素晴らしい環境が作られていると思います。長年の取組に敬意を表するとともに、これからも素晴らしい谷戸の風景や文化を、様々な人に伝え、次世代へとつないでいってほしいです。

ホームページ



活動場所
戸塚区舞岡公園

活動団体の詳細はこちら
<http://maioka-koyato.jp>



▲田植え体験イベントの様子



▲田の草取りの様子



▲わら細工「鍋敷き作り」イベントの様子



▲脱穀体験の様子



ヨコハマ海洋市民大学

活動団体名 ヨコハマ海洋市民大学実行委員会

活動概要

在住・在勤の市民は、案外海と触れる機会がなく、次世代の子どもたちに海の大切さを語るためには、まず大人が知る必要があると考えたことが始まりです。そして活動を通して、実行委員会に海と陸（海と市民）を繋ぐハブの機能を持たせようと進めてきました。

新規受講生が増えるように工夫し、海への関心が高まる講座や生き物の観察を行いながら、受講生同士のコミュニティも大切にしています。活動を通して、毎日できる小さな行動が沢山生まれることで社会課題が解決することを呼びかけています。

表彰理由

横浜の魅力・特徴である「海」を多様な角度から捉え、様々なプロフェッショナルや、海や水辺をテーマに活動する団体とも積極的に連携し活動されているため、市民の活動への「関わりしろ」が多いと考えます。また、参加者が自身の目標を見つけ、一歩踏み出し、その後も活動に関わり続けていることも大きな魅力であり、これから益々活動が発展することを期待させます。

活動場所 中区を中心とした横浜市全域

ホームページ

活動団体の詳細はこちら

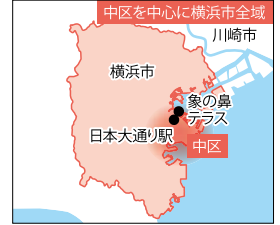
<https://yokohamakaiyouniv.wixsite.com/kaiyo/>



▲講座風景 (象の鼻テラス)



▲アクティビティ (真鶴・三ツ石海岸)



活動を支援した個人または団体

- 海岸通アーバニズムラボ
- NPO法人HamaBridge濱橋会

◆支援内容

両団体はメンバーやステークホルダーと競合することなく「人とまち」という横浜のリソースを巧みに繋ぎ成果を生み出す手法に長けており、まちのハブになることの重要性を気づかせて頂きました。また双方の交流によるデータの更新も新しい受講生のために活かされています。

まちに開かれた空間を持つ 十日市場センター地区

概要

「持続可能な住宅地推進プロジェクト(緑区十日市場町周辺地域)」として、公募売却等により、十日市場センター地区市有地のまちづくりを進めています。広場に面したコミュニティカフェや、まちのステージ等のまちに開かれた共用部「シェア共用部」が新たな空間を形成しています。

講評

JR横浜線十日市場駅から南約300mのエリアに展開する大規模住宅地のなかにあり、地域に開かれた活動拠点としてのコミュニティ施設(コミュニティカフェや「シェア共用部」)を、街区のなかにスムーズに埋め込むデザイン手法が非常に優れており、地域の住環境を豊かなものになっている。

所在地

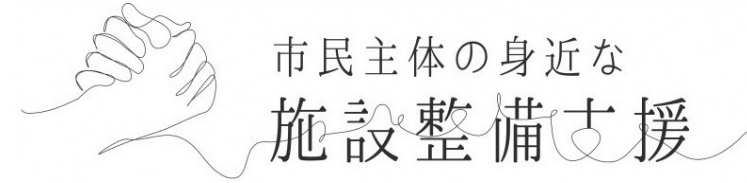
緑区
十日市場町



- 【クレールレジデンス横浜十日市場】
- 事業者: 東急不動産株式会社
- 【グレーシア横浜十日市場】
- 事業者: 相鉄不動産株式会社、伊藤忠都市開発株式会社
- シェア共用部企画デザイン監修: 株式会社オンデザインパートナーズ
- 【クレールレジデンス横浜十日市場・グレーシア横浜十日市場】
- 設計者: 株式会社東急設計コンサルタント
- 施工者: 株式会社フジタ



今年度整備事例①



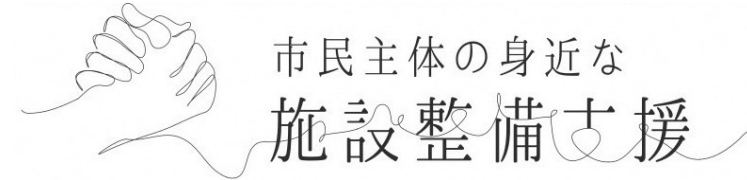
第4地区自治会連合会 **みんなの食堂** (西区)

活動について

●「みんなの食堂」は、学校給食がない長期休みの期間に子どものみで食事する機会が多くなることと、高齢者の孤食やひきこもり等が問題になっている現状を受け、平成28年の夏休みから開始しました。現在はテイクアウト方式で、夏休み・冬休み・春休みの長期休みの期間に、第4地区会館を中心とした自治会館等で実施しています。



今年度整備事例①



①階段の手すりの改修

幅が広くて小さい子が落ちそうになる。手すりが高く高齢者が階段の上り下りが大変。



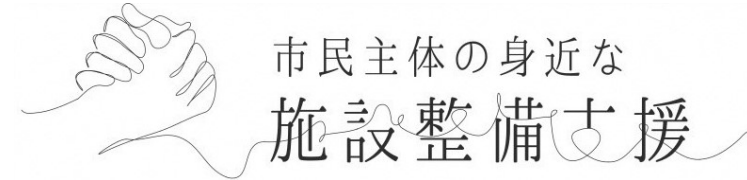
②キッチンの整備

家庭のキッチンのため一度にたくさんの量を作れない。複数回に分けなくてはいいけないため、手間がかかったり、提供ができなくなる。



地福計画に当てはまるか確認してみましょう！

今年度整備事例①



※西区のマスコットキャラクター
「にしまろちゃん」

にこまちプラン(第4期西区地域福祉保健計画、(令和3~7年度))

第4地区

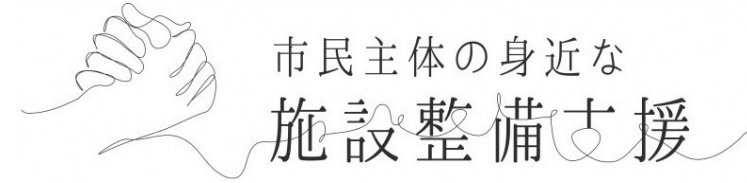
誰もがずっと住み続けたい
温かいふれあいのあるまちへ

- 子どもが健やかに育つために
- みんなのつながり
- 高齢者が元気であるために



地福計画に当てはまる活動のため、支援対象◎

今年度整備事例①



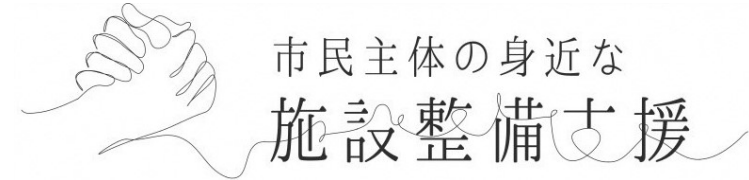
① 階段の手すりの柵の幅が広く（幅約30cm）、子どもがすり抜けて転落する危険性があることや、低い位置に手すりがなく（高さ約110cm）お年寄りが階段を昇り降りしにくい

② 「みんなの食堂」の利用者が増え、多い時は1日で300食程度の食事を第4地区会館で用意しています。現在の家庭用サイズのシンクや狭いコンロ台では一度に大量の食事をつくって片づける作業が難しく、提供まで時間がかかってしまう

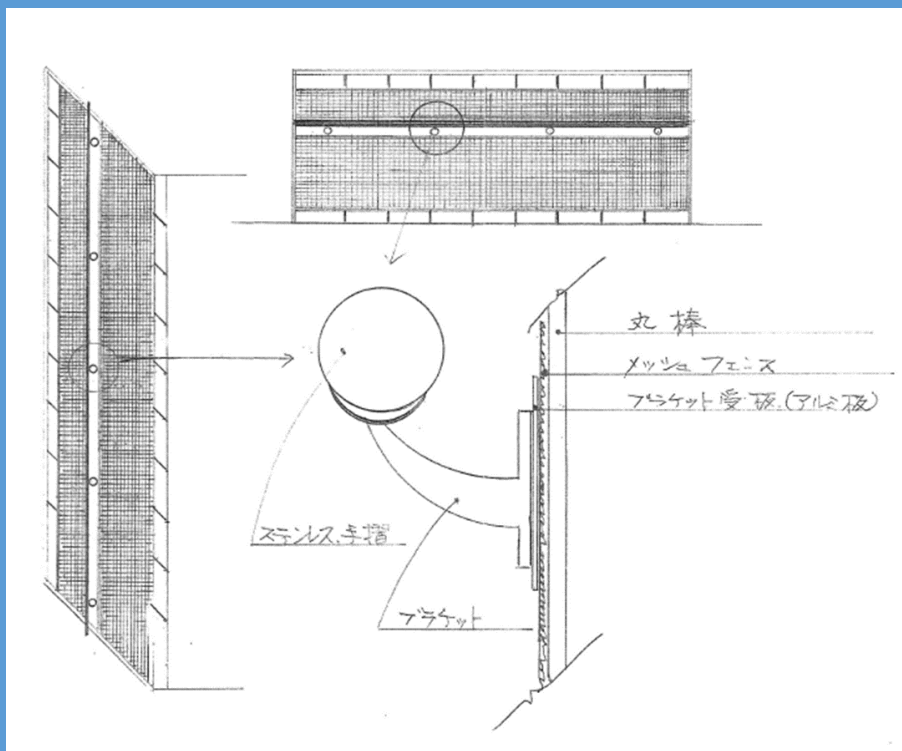


- ①メッシュフェンス取付・手すり補強工事、手すり取付工事
- ②シンク取替工事、電気工事、キッチン正面壁工事

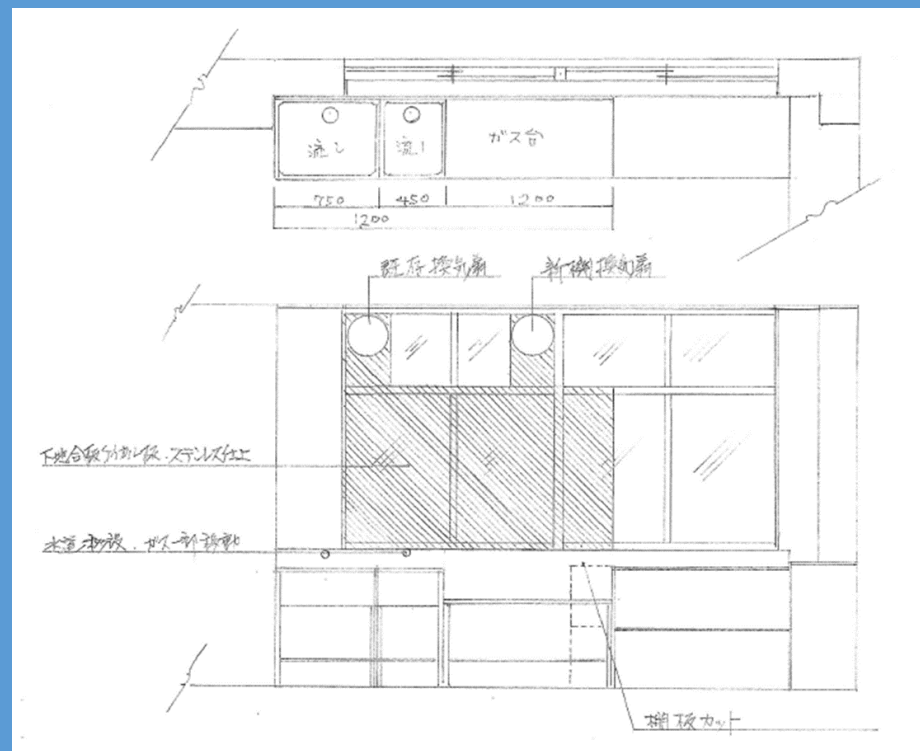
今年度整備事例①



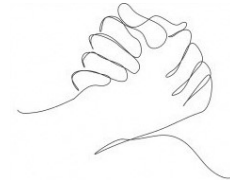
①メッシュフェンス取付・手すり
補強工事、手すり取付工事



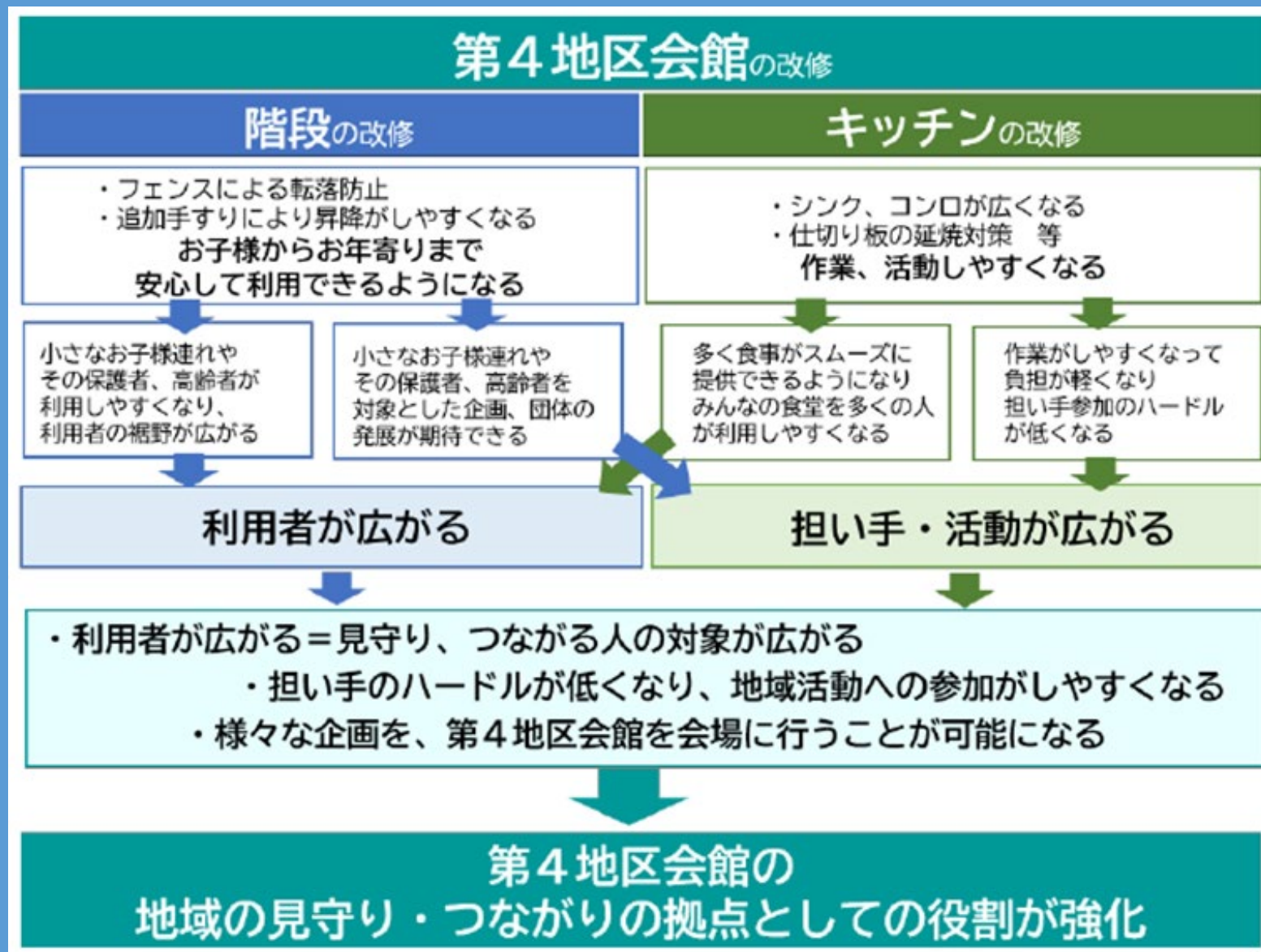
②シンク取替工事、電気工事、
キッチン正面壁工事



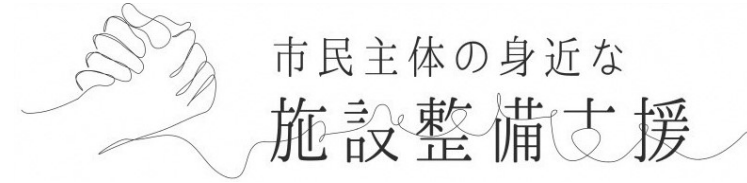
今年度整備事例①



市民主体の身近な
施設整備支援



今年度整備事例①



9月中旬 顔合わせ、内容確認

～コーディネーター派遣確定～

9月下旬 第一回打合せ

追加の具体的改修要望、具体的な改修案、今後のスケジュール確認
次回までに業者の選定や見積のお願い

10月中旬 第二回打合せ

見積確認 審査会に向けての資料や今後のスケジュール確認

10月下旬 第三回打合せ

審査会に向けての最終確認

～10月31日 審査会資料締切～

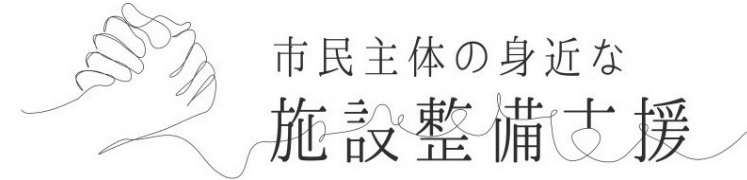
11月16日 審査会

当該申請に対する事業交付金決定後に着手し、「みんなの食堂」を行わない期間（1月下旬～3月上旬）に改修工事を行い、令和6年3月中旬に完了予定です。

	R5年11月	R5年12月	R6年1月	R6年2月	R6年3月
整備	審査委員会	交付決定 発注		工事(3w)※	

※工期は3週間程度。

今年度整備事例②



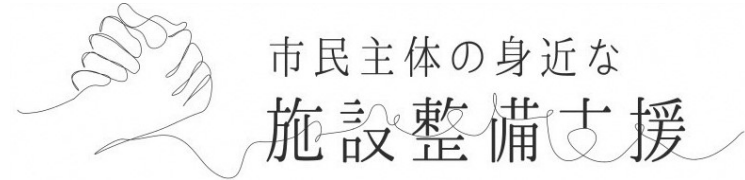
踊場地区連合町内会 さかみちプロジェクト (戸塚区)

活動経緯

- 小高い丘陵地にあるため坂道が非常に多い
- 外出時に休憩できるような場所は欲しい



今年度整備事例②



※第4期戸塚区
地域福祉保健計画マスコット

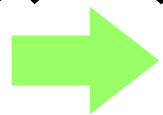
第4期「とつかハートプラン」踊場 地区別計画(抜粋)

取組3 誰にもやさしい みちづくり

交通事故の軽減や坂道でも歩きやすく、魅力ある「みちづくり」を目指します。

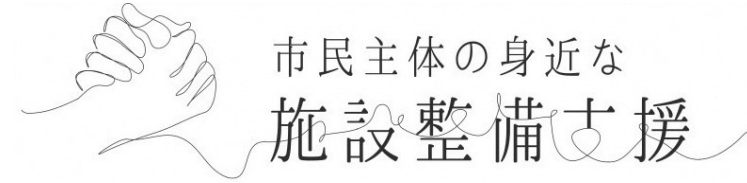


坂道でも歩きやすく、ちょっと一休みできるような
スペース、ベンチ等の設置(ハード整備)



プロジェクトの企画始動！！

今年度整備事例②



今後のまちづくりの広がり

- 坂道が多い地区においても気軽に外出できるような魅力的な「みちづくり」を目指している中、今後踊場地区全体に整備を広げていく検討をするため、本支援を通して**モデル的に実施**して、そのベンチの効果をしっかりと検証していく。
- また、活動を広げていく中で、民地への設置も視野に入れて検討をしつつ、今後も周知活動を続けながら、住民との合意形成を行っていく。

整備することで得られる効果

- 本事業を契機に街中に一休みできるベンチが増えることで、**駅やバス停との移動のハードルを下げられる**ようになり、地域交通サポートが困難と考えられる地域における**交通弱者の活動支援**につながる。
- さらに高齢者の道路等の渡り遅れや立ち往生を防ぐなど**安全安心なまちづくり**にもつながる

今年度整備事例②

STEP 1

各自治会・町内会を中心に買い物や散歩など日常生活を送る中で、ベンチが「あったらいいな」と思われる場所を抽出し、候補場所を抽出していく。

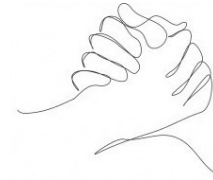


STEP 2

設置の優先順位を整理。

- ①バスを利用した高齢者が急な坂道を登って帰宅するときに利用できる場所
- ②バス路線が少ない地区内南部の住民が途中休憩しながら外出できるような場所

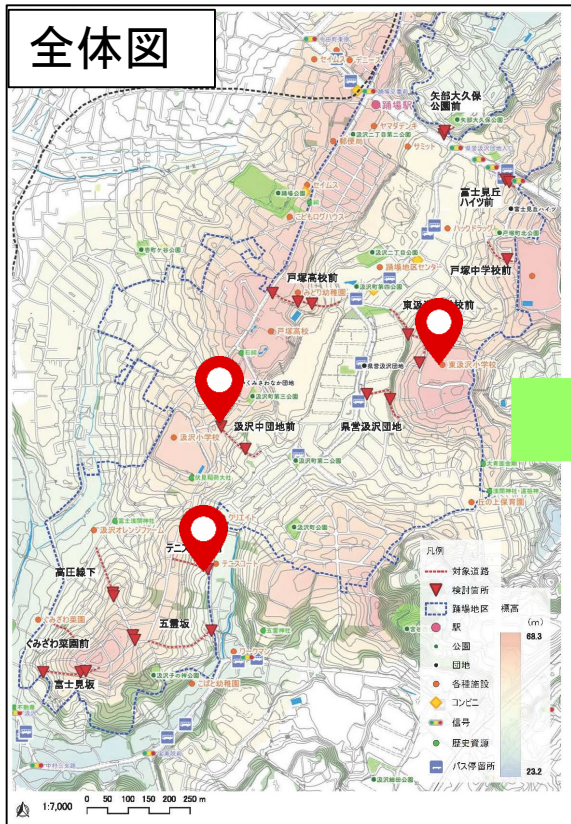
今年度整備事例②



市民主体の身近な
施設整備支援

設置箇所を整理して、マップを作成 (STEP1~STEP2)

全体図



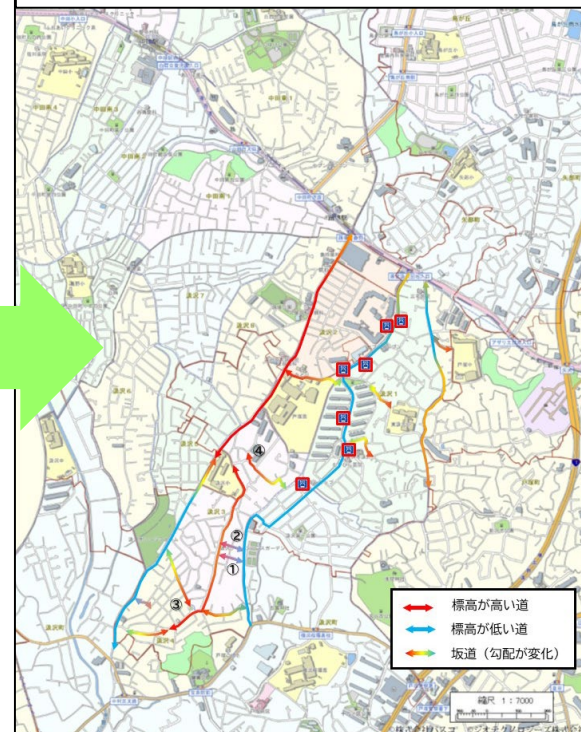
候補場所の抽出

各箇所の詳細



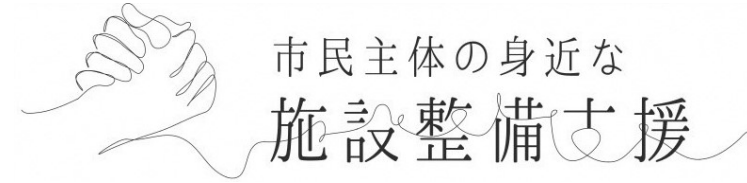
各場所の設置箇所の確認

設置箇所の優先度を整理



優先度の基準をもとに整理

今年度整備事例②



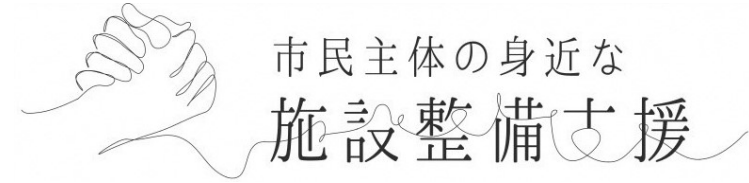
STEP 3

ベンチ等の仕様を検討。整備に関する安全性を確認する。
座って休憩したり、荷物が置けるようなベンチや台の設置するため、まちづくりコーディネータに様々な種類のベンチ等を紹介いただく。また、整備した後の安全性を担保するため、保険等も紹介していただく。



ベンチ等のカタログをもとに、実際の使い方や今後地区内で広げていくために小学生と連携するなど、様々な提案や事例の紹介、ベンチのかたちなどの説明や相談を行う。保険等の紹介も必要に応じて実施。

今年度整備事例②



STEP 4

関係者が集まって、抽出した箇所の現地視察を実施。



審査委員会で
承認される！

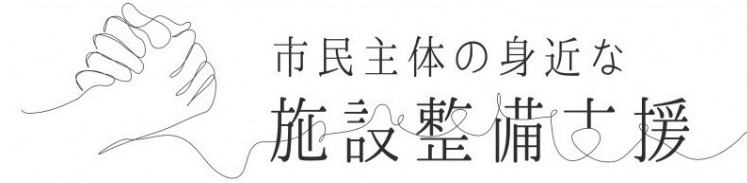
現在

団体で改めて設置場所の確認や、ベンチのかたちを検討し、より良いみちづくりのための「モデル整備」を目指して、現在も検討が進められています。





今年度整備事例②



8月上旬～下旬 顔合わせ、支援内容の確認

～コーディネーター派遣確定～

9月中旬 地域との打合せ

整備候補場所を検討、具体的な整備するものの費用や使用イメージ
に対して意見交換

10月中旬 現地視察

10月下旬 審査会資料の作成

～10月31日 審査会資料締切～

11月16日 審査会

12月下旬 地域との打合せ

整備場所の確認、実際の整備に対する準備・調整

【参考】コーディネーターの支援内容

- 地域との打合せに出席
- ベンチ等のデザインや活用事例の紹介
- 整備後の安全性に対する助言（自治会が行える保険の紹介） など

令和5年度 ヨコハマ市民まち普請事業 2つの施設整備提案を助成対象に決定!

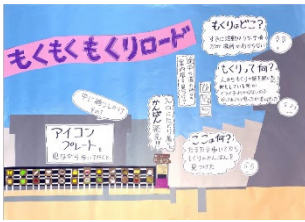


令和6年1月28日(日)に「令和5年度ヨコハマ市民まち普請事業2次コンテスト」を開催し、創意工夫・実現性・公共性・費用対効果・地域まちづくりの発展性の5つの審査基準での公開審査の結果、**2つの提案が整備助成対象に選考されました!**

整備助成対象に選考された提案

HOMMOKUもくりプロジェクト

HOMMOKUもくりプロジェクト実行委員会(中区本牧町)



子どもから高齢者まで集う活動中の古民家や畑をより開放された施設とするために、案内板等の設置や外構を整備し、誰でも入りやすく、本牧の実家のような居場所とする。

【評価ポイント】地域の意見も取り入れることにより、提案内容がより魅力的なものとなっていた。整備をきっかけに、住宅地の中にある自然と共生できる貴重な空間や体験を、まちへ広げていくことに期待ができる。

リアルとバーチャルで夢を応援 えだきんメタワールド

えだきん×夢叶きやらばん(都筑区荏田南)



子どもも集まるえだきん商店街の一角にテラスやステージ等を整備。

誰もが繋がりをもち、自分を表現できる居場所、孤立せず自分の居場所がある地域を目指す。

【評価ポイント】整備予定場所が、地域にとって、守っていききたい大切な場であることが認識できた。また、整備により、テラスやステージが、どの世代にも、夢が叶う場、助け合える場として活用され、まちづくりが発展していくことが期待できた。



熱意溢れるプレゼンテーション



審査員との質疑応答



緊張の結果発表

令和5年度から「子育てプラス」として事業を拡充し、「子育てしたいまち・次世代をともに育むまちヨコハマ」の実現を目指しています。

2次コンテストには、子どもたちも参画し地域の方と一緒に発表や応援する姿も見られました。

令和6年度内の整備完了を目指し活動開始!

2次コンテストを通過したグループは、令和6年度中の整備完了を目指し活動します!



ヨコハマ市民まち普請事業とは

市民の皆様が主体となって行う地域の課題解決や魅力向上のための施設整備の提案に対して、支援、助成を行う横浜市独自の事業です。二段階の公開コンテストを経て選考された提案には、50万円～500万円の整備助成金を交付し、まちづくりを支援します。

令和6年度の提案募集を開始します

提案募集期間

令和6年2月13日（火）～5月31日（金）17時必着

申込方法・申込様式

まち普請事業ウェブページをご確認ください

担当連絡先

都市整備局地域まちづくり課まち普請事業担当

電話：045-671-2679

E-mail: tb-seibiteian@city.yokohama.jp



◀ まち普請事業
ウェブページ

まち普請



まち普請 整備施設見学バスツアー

応募を検討している方を対象に、これまで整備された施設をめぐるバスツアーを開催します。当日は実際に整備した先輩からまちづくりのコツや提案のヒントになるような話をさせていただきます。まずは担当連絡先まで、お気軽にご相談ください。

日時: 3月10日(日) 12:15～16:40(予定)

見学場所: コミュニティカフェ「icocca」(港南区)

美晴台道路の愛称入り案内板(港南区)

世代を超えた集いの場「おもいやりハウス」(南区)

※取材をご希望の方は、2月28日(水)までに下記のお問合せ先にご連絡ください。

コミュニティカフェ
「icocca」



令和5年度ヨコハマ市民まち普請事業 応援企業のみなさま



ヨコハマ市民まち普請事業は、市民主体のまちづくりの支援を通じてSDGsの目標達成を目指す事業です。SDGs推進に精力的に取り組む以下の企業の皆様からの応援をいただいています。



石井造園株式会社



各企業の
HPリンク一覧
(市ウェブページ)



お問合せ先

都市整備局地域まちづくり課担当課長 村瀬 亮二

Tel 045-671-2665



まちなち事業 令和6年度の募集を開始します！

今年度は募集期間を拡大！提案者向けの見学バスツアーも開催！

横浜市独自の事業であるヨコハマ市民まちなち事業（以下、「まちなち事業」）を、
例年よりもパワーアップして実施します！

その① 募集期間を1.5か月拡大

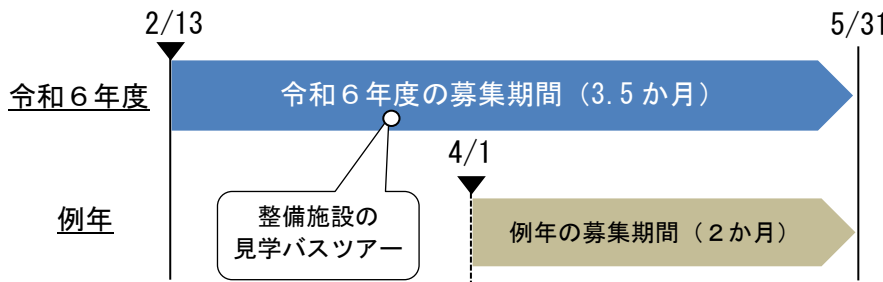
その② 整備施設の「見学バスツアー」を開催

多くの方にご提案いただけるよう、アイデアの実現に向けたサポートを早期に開始し、実際の事例を見学する機会を設けます。

まちなち事業では、市民の皆様が主体となって行う地域コミュニティの活性化を図る分野不問の提案に対し、最大500万円を助成します。



パワーアップその① 募集期間を1.5か月拡大



パワーアップその② 見学バスツアー開催！

提案を検討されている方向けに、これまでまちなちで整備された施設を見学するバスツアーを開催。当日は実際に整備した先輩からまちづくりのコツや提案のヒントになるような話をさせていただきます。

日時：3月10日（日）12：15～16：40（予定）

見学場所：コミュニティカフェ「icocca」（港南区）

美晴台道路の愛称入り案内板（港南区）

世代を超えた集いの場「おもいやりハウス」（南区）

※取材をご希望の方は、2月28日（水）までに裏面のお問合せ先にご連絡ください。



コミュニティカフェ「icocca」

募集期間・申込方法

■募集期間 2月13日（火）～5月31日（金）17時必着

■申込方法

まちなち事業ウェブページをご参照ください。

※本事業は令和6年度の予算が横浜市会において議決されることを条件とします。

予算の議決がなされなければ、事業を実施いたしません。

■担当連絡先

都市整備局地域まちづくり課まちなち事業担当

電話：045-671-2679

E-mail：tb-seibiteian@city.yokohama.jp



まちなち事業ウェブページ
様式はこちらからダウンロードできます。

まちなち 検索

過去の整備事例

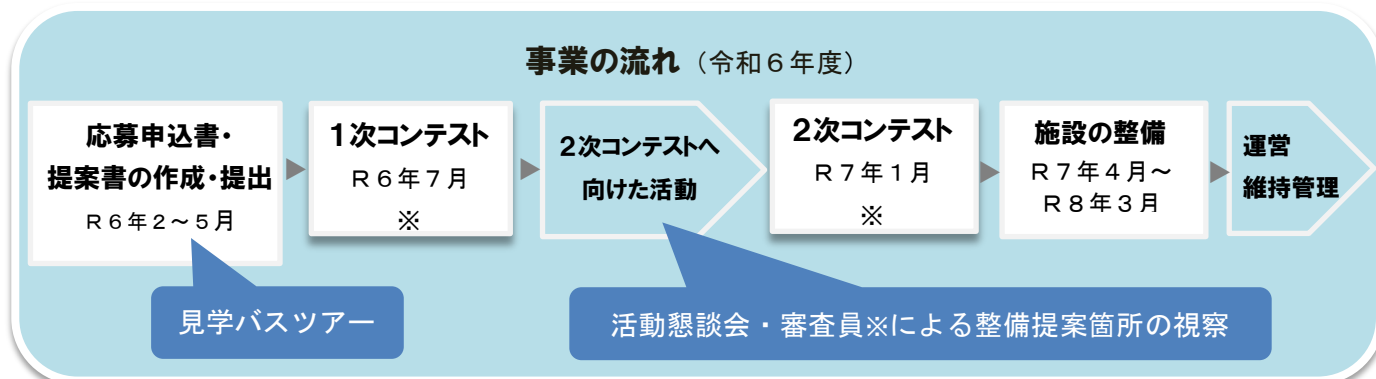
これまでの整備事例はこちらからご覧いただけます。



裏面あり

まち普請事業とは

まち普請事業は、市民の皆様が主体となって行う地域の課題解決や魅力向上のための施設整備の提案に対して、支援・助成を行う横浜市独自の事業です。**2段階の公開コンテスト**を経て選考された提案に、**最大500万円の整備助成金**を交付し、地域のまちづくりを支援します。



※コンテストの審査員は、横浜市地域まちづくり推進条例に基づき設置される「ヨコハマ市民まち普請事業部会」の委員8名です。（地域まちづくりについて専門的知識を有する者6名、市民公募により選出された2名）

提案の実現に向けた支援

○市職員が支援

提案内容の整理や関係機関との協議・調整などを地域まちづくり課の職員が支援します。

○まちづくりコーディネーターの派遣

提案内容について専門的な見地からアドバイスをしてくれるまちづくりの専門家を紹介します。

○活動助成金（最大30万円）の交付

1次コンテストを通過した団体に2次コンテストに向けて活動助成金を交付します。まちづくりコーディネーターの謝礼のほか、2次コンテストに向けた活動のための事務用品費や図面作成費等に充てることができます。

○整備助成金（50～500万円）の交付

2次コンテストで整備助成金の対象として選考された団体に、整備助成金を交付します。

まち普請事業にチャレンジするメリット

これまでの提案者の方から伺った、まち普請に挑戦するメリットをご紹介します。

- ・地域住民の方々や地縁組織などこれまでなかったつながりが生まれた。
- ・市から支援を受けていることで、地域の方などに活動の理解を得やすく、賛同につながった。
- ・市の記者発表などに載るため、グループの活動の認知度が上がった。
- ・他の市民活動グループなどとのつながりが生まれ、活動の幅が広がった。
- ・1年間の流れに沿って計画的に活動を進めることで、短期間でアイデアを実現することができた。

お問合せ先

都市整備局地域まちづくり課担当課長 村瀬 亮二 Tel 045-671-2665